校内研修計画

山梨市立日下部小学校

１　学校課題

　本校では、長年の継続研究(学級力向上やICT活用など)の成果として、全体的に落ち着いて生活・学習することができる児童が多い。また、2年前のLDXの事業指定を受け、取りくんだことにより、職員全体でICTを活用する意識が向上し、授業づくりに積極的に活用している。

一方で、児童が自ら学習方法を選んだり、学び方を選んだりしながら授業の中で他者と協働し意欲的に学習に取り組むためには、児童が学びの主体となる授業づくりに、より一層取り組んでいく必要がある。また、児童が安心して学びあうことができる環境を整えていくことを目的に、学級力の向上に向けた取り組みも継続して行っていく必要がある。

２　研究主題

学び続ける児童の育成(2年次)

〜子どもたちが学びの主体となる授業づくり～

３　主題設定の理由

　昨年度、本校は低中高学年ブロックにおいてそれぞれ研究を進めてきた。各ブロックにおいて、研究主題である「学び続ける児童」の実現に向けた独自のテーマを設定して研究に取りくみ、成果を上げてきている。低学年ブロックは、「感じ、考え、試し続ける授業づくり」、中学年ブロックは、「子どもの興味をかきたてる　楽しい授業づくり」、高学年ブロックは、「学びのサイクルを生かした授業づくり」を、テーマに授業実践・研究を進めた。また、図工と理科においては学習会(講師は本校職員)を行い、教具の使い方や指導方法等について学びを深めたり、本校の特色であるスタートカリキュラムについての検証を行ったりした。

〇主な成果

・具体物を使用する場面では、児童が興味をもって取り組み、意欲を持って学習にとりくむことができた。(低ブロ)

・ペアやグループなどを使った話し合い活動を通して、挑戦したり、試行錯誤したりする場面が見られた。(中ブロ)

・選択する場面では、選択肢を多くするなどの手立てにより、主体的に活動できた。(高ブロ)

▲主な課題

・学習意欲がもともと低い児童にどのように意欲を持たせていくか、自分の力で取り組むことが難しい児童にどのように取りくませるか考えていく必要がある

上記のような成果と課題が年度末の反省で出てきた。これらの成果と課題をもとに、今年度はテーマをしぼり、ブロックに分かれて研究を行うこととする。また、今年度は、「初任者研修授業研修会」の該当校になり、峡東地域の初任者に授業を提供し、学びを深めてもらうことになっている。そのため、学校全体で共通理解を丁寧に行いながら、授業づくりを行っていることが大切であると考える。

その中で、昨年度の研究で「学び続ける児童」の育成につながった「子どもが主体となる学び方の工夫」を主に、研究をすすめていきたい。

**〇低学年ブロックは、「学習形態の工夫」**

→昨年度の「わいわいタイム」・「試しの会」などを設定した学習形態で進める学び

**〇中学年ブロックでは、「学び方の選択」**

→学び方の選択肢を与え、自分で決めて進める学び

**〇高学年ブロックでは、「学びのサイクル」**

→「つかむ・見通す・取りくむ・つなげる・広げる」のサイクルで、自分の状況を理解し、学び方を選択し進める学び

上記のような発達段階に応じた学び方の工夫をした授業づくりを行うことで、日下部小学校全体で「学び続ける児童」の育成につながっていくと考えられる。

　また、「学び続ける児童」の育成には、学級における人間関係(子どもと子ども、子どもと教職員など)における支持的風土・共感的関係性が重要である。　本校においては、様々な課題のある児童もいるが、長年の継続的な研究・実践の成果として、全体的に児童が落ち着いて生活し、共感的な人間関係性が土台としてできている。そのため、授業づくりを研究していくことで、児童がさらに成長し、「学び続ける」姿勢を身につけられるようにしていきたい。あわせて、土台となっている学級づくりについても、引き続きブロックでの情報共有や児童の実態に応じて取り組みを行い、さらなる安心できる学級づくりを行っていく。

４　具体的な研究の取組

1. 授業づくり

・子どもたちが学びの主体となる授業の工夫(学習形態の工夫・学び方の工夫・学びのサイクルの活用)

→話し合い活動の設定、ICTの活用、複線型授業、外部人材の活用など

1. 学級づくり

・学級力向上プロジェクトやQUの活用

　　　　・朝の会、帰りの会、学活、など様々な場面で関係づくりができる場面の設定・情報共有(OJT)

　　　　・様々な職員による日々の学習面や生活面での子どもたちの関係性の見取り

５　年間研修計画

 （研究主任　橋本　耀太）